

日本鐵鋼協會記事

昭和 26 年度第 10 回理事會報告 日時: 26—12—12, 16 時 30 分~19 時 30 分. 會場: 協會々議室. 出席者: (會長) 田中清治 (副會長) 富山英太郎 (理事) 内川 悟, 岡本正三, 佐藤忠雄, 島村哲夫(代)池田 正 (前會長) 俵 國一, 吉川晴十 (監事) 志村清次郎 (常務委員) 伊木常世, 石田四郎, 石田 稔, 俵 信次 (主事) 金谷三松

報告事項 1. 昭和 26 年度第 9 回編集委員會報告. 日時: 26—11—27, 16 時 30 分~21 時. 會場: 協會々議室
出席者: (理事) 岡本正三君. (常務委員) 芥川武君, 菊池浩介君, 俵 信次君. (編集委員) 内山道良君, 長谷川正義君, 濱本甲子生君, 松下幸雄君, 三橋鐵太郎君, 安田洋一君. (主事) 金谷三松

(報告) (1) 昭和 26 年 10 月號は 10 月 31 日竣成發送スミ. (2) 同 11 月號は 11 月末日竣成の豫定. (協議)
(1) 昭和 27 年 2 月號原稿選定の件. (2) 編集委員 2 名補充の件決定. 夫々へ協會より依頼のこと. (3) 金屬の組織寫眞展示會開催の件決定. 本件規則を兩會で至急作成の要あり, 委員は 5 名宛 10 名位で相談し度, 至急金屬學會へ交渉のこと. (4) 特別講演原稿を優先掲載の件承認. 2 月號に入ること. (5) 講演大會の前刷は大會出席以前に出席者へ手交するよう又内容も今少しく詳細に亘るよう取扱うこと, 決定. 講演締切日を厳守し前刷原稿を 6~10 枚, 圖表は各論文に付き 3 個以内とし會告にて發表のこと. 2. 昭和 26 年度第 2 回東京地方講演會報告. 日時: 26—12—8 (土) 13 時~17 時 15 分. 會場: 千代田區丸ノ内 3 丁目日本交通協會. 出席者: 300 名. 講演題目:

(1) 世界冶金會議の概要

東京大學教授工博 三島徳七君 (1 時間 30 分)

(2) 米國製鋼工場視察談 (世界冶金大會見學第 1 班) 日本特殊鋼株式會社製鋼部長 工 石原善雄君 (1 時間)

(3) 世界冶金會議熱處理班について, 新大同製鋼株式會社取締役 工博 錦織清治君

(4) 米國に於ける鋼製品並に素材の試験検査方法の進歩について 日本鋼管株式會社川崎製鐵所

技術研究所長 工博 菊池浩介君

3. 今秋名古屋市に於ける大會の際小林子之輔君より優秀講演に對し金 1 萬圓寄贈の件は理事會及び東海支部長協議の結果委員會に附託のこととなりその決議により名古屋大學教授佐野幸吉君に贈呈のこととなり, 小林子之輔君へ通知のところ右贈呈方完了.

協議事項 1. 來春 4 月第 43 回講演大會第 37 回通常總會開催の件 a. 期日決定 4 月 1 日 2 日 (講演) 4 月 3 日 (見學). b. 金屬學會と連合開催の可否決定. 本會としては金屬組織展示會の件もあり同一期間に同時に実施さるゝことを望む. 講演は以前の如く兩會混合せず單獨に實施のこと. c. 出席費 100 圓. 印刷物費 200 圓承認. d. 理事, 監事, 常務委員改選候補者. e. 評議員改選候補者. f. 服部, 香村, 俵, 渡邊各賞受賞者の件, 決定. 以上何れも本年末日迄に各自の案を協會へ書き送り協會にて協議案を作成のこと.

2. 常務委員森龍郎君新扶桑金屬工業株式會社鋼管製造所長へ榮轉々出につき御解囑を願ひ後任に同社東京支社技術部次長阿部信男君を御依頼のこと. 又編集委員, 吉崎鴻造君下松工場へ御榮轉につきその交代として富士製鐵株式會社技術部, 森永孝三君に御依頼のこと. 3. 鋼の熱處理と作業標準第 2 版を丸善書店に發行せしむる件承認. 4. 鐵鋼要覽第 4 版を改編することとし, 昭和 30 年 (本會創立第 40 周年) 發行のこととし, その準備に着手の件承認. 5. 明春 4 月中旬開催の第 6 回日本工學大會に協會より代表者の出演の件決定. 湯川正夫君へ鐵鋼將來の見込につき御依頼すること. 6. 昭和 26 年 11 月分收支決算審議の件承認. 7. 入退會者及會員異動の件承認.